

平成24年度 STI 予防委員会研究報告

横須賀市医師会 STI 予防委員会

<緒 言>

横須賀市医師会と横須賀市健康部は、長年に亘って横須賀市内に発生する STI (Sexually Transmitted Infections=性感染症) 撲滅及び予防のために密接な協力体制を維持して来た。その為毎年、各年度ごとに横須賀市における STI の発生状況に対する実態調査を行っている。ここに平成 24 年度の調査結果を集計し、検討を加えたので報告する。この様な STI の調査は他の地方自治体でも行われているところもあるが、泌尿器科、婦人科、皮膚科の三科共同での集計は横須賀市のみと思われ、貴重な集計結果と評価されている。

<対象及び方法>

平成 24 年 4 月から平成 25 年 3 月までの期間に横須賀市内の協力医療機関 (別記) を受診した患者さんを毎月、横須賀市医師会に FAX にて届け出てもらい、横須賀市健康部および保健所の協力で集計した。

平成 6 年度より、泌尿器科、皮膚科、婦人科及び性病科を標榜する医療施設全てに届出の依頼と届出用紙を配布している。

膣カンジダ症は症例が多いこと、必ずしも STI ではないこともあり、届け出は婦人科医の自主性にまかせ、届け出されたものについてのみ集計した。

非淋菌性尿道炎の「その他」については、クラミジア及び淋菌の検出はなかったが、明らかに STI が考えられる尿道炎につき届け出され集計した。子宮頸管炎の「その他」も同様である。

<結 果>

1. 届け出施設と回収率

50 施設 (病院 8、診療所 42) にアンケートを依頼し、届け出に協力いただいた施設は 40 施設で回収率は 80% であった。その内訳は病院が 7/8 (88%)、泌尿器科診療所 5/6 (83%)、婦人科診療所 12/14 (86%)、皮膚科診療所 6/11 (55%)、混合科診療所 9/11 (82%) で昨年とほぼ同じであった。

2. STI の総数

平成 24 年度 STI 届け出数を年齢別、性別、病名別に表 1 に示した。全届け出数は 731 件で、昨年の 658 件に比べ 11% 増加し、一昨年の 599 件より 22% 多かった。

3. 疾患別の統計

1) 梅毒：初期梅毒は 5 例、後期潜伏梅毒はなかった。昨年度は初期梅毒は 2 例であり、増加した。

2) 淋菌：淋菌性尿道炎は 86 例でその内 7 例が女性であった。本年は昨年の 89 例をわずかに下まわり、一昨年の 64 例、一昨々年の 48 例を大きく上回った。

15 歳～19 歳のハイティーンでは男性 2 例、女性 2 例が罹患した。中心は 20 歳から 30 歳代に多く 40 歳後半から少なくなっている。20 歳～24 歳が 22

例 26%、25歳～29歳が16例19%、30歳～34歳が10例12%、35歳～39歳が13例15%で、その後は漸減しており、40才以上は全体で21例24%であった。

淋菌性子宮頸管炎は7例で昨年17例とくらべ減少している。これは男性の淋菌性尿道炎の9%にあたり、又、クラミジア性子宮頸管炎のわずか4%である。本年も淋菌性咽頭炎が女性で2例報告されている。

- 3) クラミジア感染症：クラミジア性尿道炎は150例で、その内130例が男性で昨年118例を少し上まわり、ここ数年の減少傾向は止った。男性のクラミジア疾患は淋菌の1.6倍とやや上昇した。一昨年度は淋菌の1.7倍、昨年は1.4倍であり、余り変動はない。年齢別では淋菌とほぼ同様の傾向を示しており、20歳～30歳代が中心であった。本年度は男性の10代の頻度は5例、女性では4例であった。

クラミジア性子宮頸管炎は188例で昨年165例、一昨年170例を10%以上上まわっている。年齢別には14歳から19歳のハイティーン層が35例で全体の19%で、昨年25%、一昨年21%とくらべやや下まわっている。男性の同年令層の4%に比較して著しく高く、注目される。しかも14歳以下が2例、16歳4例、17歳6例と中高生世代の患者の存在も注目である。又、20歳～24歳が54例で全体の29%、25歳～29歳が41例で22%であり、29歳までが69%を占めている。

本年もクラミジア性咽頭炎が男性2例女性1例が報告されている。

- 4) その他のSTI：陰毛しらみ症1例、(男0、女1例)、性器ヘルペス149例(男26例、女123例)、昨年133例を12%上まわり、その内、初発89例、再発60例で、再発が40%を占めていた。尖圭コンジローマは51例(男21例、女30例)で、昨年38例を34%増加した。

- 5) 一般細菌など：その他の病原体を原因とするSTIは84例(11%)で昨年とくらべやや増加している。

4. 年齢別及び性別発生頻度

全症例731例について、年齢別の頻度を見ると、10歳代69例(9%)、20歳代292例(40%)、30歳代201例(27%)、40歳代105例(14%)、50歳代30例(4%)、60歳以上は34例(5%)であった。この年齢別の比率は20歳代、30歳代で昨年とほぼ同じで全体の67%を占めていた。10歳代がやや減少したのが目立った。

男女別の発生頻度では、男性301例(41%)、女性430例(59%)で、昨年とほぼ同様で、女性が男性の1.4倍であった。女性は40歳を越えると急に発生率の減少の傾向を示しているのも例年のとおりである。

5. 感染源

表2に STI の感染源について示した。男性の感染源については、風俗関係のプロからの感染が81例(不明を除く男性全体の49%)が1位で、友人が72例(44%)で2位で、昨年度とは順位が逆転した。女性では友人からが105例(不明を除く女性全体の54%)と多く、次が配偶者の89例(46%)であった。

6. 感染地域

感染地域について、表3に示した。一昨年から風俗からの感染に限って集計しているので今までの統計とは比較できない。横浜市が最も多く27例(不明除く60%)、横須賀市5例(11%)、川崎市2例(4%)、国外は2例(4%)と少なかった。

<考 察>

1. 総 括

平成24年度の STI 届け出総数は731例で昨年の658例にくらべ11%増加しており、平成15年度から続いた減少傾向が一昨昨年6年ぶりに止まってしまったが、一昨年は減少し昨年からは上昇に転じている。淋菌感染症は減少しているが、他は全て増加し、特にクラミジアが昨年より51例(昨年の18%)増加しているためである。更にヘルペス、尖圭コンジローマも増加している。現在 STI の中で、最も頻度の高い淋菌とクラミジアだけに注目すると(表4)、男性は両者の合計211例、女性は225例、全体で436例と昨年の396例を40例も上まわり男女比は1:1.11と昨年と異なり女性が上まわっていた。全症例の男女比は1:1.4で昨年に続き本年も女性が多い。

届け出施設は、50施設中40施設で回答率は80%と今までの最高の回収率であった。

明らかに臨床的には STI と思われる急性尿道炎で、淋菌もクラミジアも検出されない尿道炎が27例あり、原因菌が不明な子宮頸管炎が10例、計37例あるが、この中には検査すればマイコプラズマ、ウレアプラズマなど検出される可能性もあり、今後も削除しないで報告していきたい。

2. 各 論

1) 梅毒: 図1の如く、減少の一途をたどっていたが、平成13年度に21例と突然増加した。その後平成14年、15年とほぼ減少傾向にあり、本年は初期梅毒が5例で増加した。初期梅毒に限ってみると、一昨昨年5例、一昨年0、昨年2例であったが、本年再び増加傾向を示しており、全国的にも同様の傾向にある。

2) 淋菌: 昭和50年頃から梅毒と入れかわる様に増加して来ている。一時エイズショックのためと思われる減少を平成5年頃示したが、その後激増して、平成11年度148例、12年度119例、13年度142例、そして14年度123例、15年度126例と横ばい状況であった。19年度98例、20年度79例、そして21年度は58例と著しい減少を示したが、平成22年には64例と微増し23年度106例と急に増加したが、本年度は95例とやや減少している。

それにしても女性の淋菌性子宮頸管炎は例年少なかったが、一昨年はやや増加し12例、昨年は17例、本年は7例で、男性の淋菌性尿道炎の9%にとどまっている。

- 3) クラミジア：男性のクラミジア性尿道炎は平成11年度89例、12年度137例、13年度165例、14年度162例、15年度135例、16年度152例、17年度123例、18年度133例、19年度123例、20年度98例、21年度108例、22年度103例と下降傾向を示しているが、23年度は118例とやや上昇し本年は132例と6年ぶりに大きく上昇した。女性のクラミジア感染症も16年度192例、17年度181例と減少傾向、18年度167例、19年度151例、そして20年度161例と減少傾向をみせたが、21年度は180例、22年度も180例、23年度は172例で全経過をみると少し上昇傾向を示していたが、今年度は209例と12年ぶりに200例を超えた。
- 4) その他のSTI：性器ヘルペスについては一昨年度から初発と再発を区別し統計をとった。初発は89、再発は60例で、再発が40%を占めていた。全体としては昨年の133例を16例上まわった。その他、陰毛しらみ症2例、尖圭コンジローマ51例と昨年を13例上まわった。夫々はそれほど重大な疾患ではないが、確実に毎年同程度の数の発生を見ていることも忘れてはならないことであろう。
- 5) 感染源：男性の感染源はやや昨年と異なり1位は風俗の女性の81例（49%）であった。ただ不明も多く、患者の回答も虚偽のものもありそうな印象である。女性は例年と同様で友人が大部分、配偶者も多かった。
- 6) 感染地域：一昨年から風俗からの感染の地域にしぼって統計をとったため、従来の結果と異なったものである。横浜市が最も多く27例（60%）次は横須賀市5例（11%）、川崎市2例（4%）、国外は2例と少なかった。

<おわりに>

1. 平成11年～14年は全STIの届出数は900人であったが、15年、16年は800人台になり、17年725人、18年から更に減少傾向で600人台と減少していたが、本年度は731人と急激に増加、7年ぶりに700台に入った。
2. この増加の原因は、淋菌感染症を除いては、ほぼ全ての疾患で上昇傾向を示し、特にクラミジアは昨年より51例も増加しているためである。真の原因は不明である。
3. 回収率は80%と高く、この統計の価値を高めている。多忙の中、毎月調査のご回答にご協力下さり、当委員会では感謝しています。

4. 原因菌不明の非淋菌性尿道炎及び子宮頸管炎が全S T Iの11%あり、今後マイコプラズマ、ウレアプラズマなどの検出が容易になればS T Iとして確実に証明されるわけで、現状は削除しないでこのまま報告続行して行きたい。
5. 本年度はクラミジア性咽頭炎、淋菌性咽頭炎が計5例報告された。男性のクラミジア咽頭炎2例が報告されており、咽頭の検査をする施設が少しずつ増加していると推定している。各施設で 検査を施行すれば更に多く報告が予想される。今後の検討課題である。
6. 例年述べているが、この統計資料をどの様に生かすか当委員会の検討課題である。全国サーベイランス情報と時々異なる傾向を示しており、横須賀市独自の傾向を見ていくのも一つの課題かもしれない。
7. 当会の資料は神奈川県性感感染症学会に報告され、永年に亘る市内全域における調査は日本では少なく、非常に貴重であると評価されている。本年度も報告の予定である。

文 献

1. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成4年度性病予防委員会研究報告、1992
2. 公平昭男、古畑哲彦、原上、小川英、大沢章通、松岡俊介、鈴木忍、花田剛：横須賀市における性病およびSTDの動向、神奈川医学会雑誌、20、47-51、1993
3. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成5年度性病予防委員会研究報告、1993
4. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成6年度性病予防委員会研究報告、1994
5. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成7年度性病予防委員会研究報告、1995
6. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成8年度性病予防委員会研究報告、1996
7. 横須賀市医師会性病予防委員会編：平成9年度性病予防委員会研究報告、1997
8. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成10年度STD予防委員会研究報告、1998
9. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成11年度STD予防委員会研究報告、1999
10. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成12年度STD予防委員会研究報告、2000
11. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成13年度STD予防委員会研究報告、2001
12. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成14年度STD予防委員会研究報告、2002
13. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成15年度STD予防委員会研究報告、2003
14. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成16年度STD予防委員会研究報告、2004
15. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成17年度STD予防委員会研究報告、2005
16. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成18年度STD予防委員会研究報告、2006
17. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成19年度STD予防委員会研究報告、2007
18. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成20年度STD予防委員会研究報告、2008
19. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成21年度STD予防委員会研究報告、2009
20. 横須賀市医師会STD予防委員会編：平成22年度STD予防委員会研究報告、2010
21. 横須賀市医師会STI予防委員会編：平成23年度STI予防委員会研究報告、2011

表1 病名・年齢・性別集計

(平成24年度)

病名コード	病名	性別	合計	0-14	15	16	17	18	19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-	
1	梅毒初期	男	4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
2	梅毒後期潜伏	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	梅毒先天性	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	性器ヘルペス初発	男	15	0	0	0	0	0	2	2	0	1	2	1	0	2	2	3	
		女	74	1	0	0	2	2	4	15	15	11	2	9	3	1	2	7	
5	性器ヘルペス再発	男	11	0	0	0	0	0	0	0	1	3	2	2	2	0	0	1	
		女	49	0	0	0	0	0	0	3	2	6	8	9	9	2	1	9	
6	淋菌性尿道炎	男	79	0	0	1	0	0	1	20	15	10	13	14	2	1	1	1	
		女	7	0	0	1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	1	1	0	
7	非淋菌性尿道炎クラミジア	男	130	1	0	1	1	1	2	30	30	23	20	11	5	1	2	2	
		女	20	0	0	1	1	0	2	9	3	1	3	0	0	0	0	0	
8	非淋菌性尿道炎一般細菌	男	9	0	0	0	0	0	0	1	3	2	1	1	1	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
9	非淋菌性尿道炎トリコモナス	男	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	
		女	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
10	非淋菌性尿道炎その他	男	23	0	0	0	0	0	0	0	6	6	5	1	2	0	1	2	
		女	4	0	0	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	0	
11	子宮頸管炎クラミジア	女	188	2	0	4	6	11	12	54	41	28	17	6	4	1	0	2	
12	子宮頸管炎淋菌	女	7	0	0	0	1	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	
13	子宮頸管炎一般細菌	女	9	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	5	
14	子宮頸管炎その他	女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	
15	トリコモナス膣炎	女	35	0	0	0	1	1	1	2	6	5	4	7	3	4	0	1	
16	陰毛しらみ症	男	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
		女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
17	尖圭コンジローム	男	21	0	0	0	0	0	0	1	4	1	10	2	2	0	1	0	
		女	30	0	0	1	0	0	1	13	3	3	3	4	1	1	0	0	
18	淋菌性咽頭炎	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		女	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	
19	クラミジア咽頭炎	男	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	
		女	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
20	その他	男	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	合計		731	4	0	9	13	15	28	159	133	103	98	69	36	17	13	34	

表2 STIの感染源

(平成24年度)

感染源	小計	男	女
不明	371	136	235
友人	177	72	105
配偶者	96	7	89
風俗	82	81	1
その他	5	5	0
合計	731	301	430

(平成24年度)

表3 STIの感染場所(感染源:風俗)

感染場所	小計	男	女
横須賀市	5	5	0
横浜市	27	27	0
川崎市	2	2	0
相模原市	0	0	0
鎌倉市	0	0	0
逗子市	0	0	0
三浦市	0	0	0
葉山町	0	0	0
その他県内	2	2	0
県外	8	7	1
国外	2	2	0
不明	36	36	0
合計	82	81	1

表4 淋菌及びクラミジア感染症の推移

年度	淋菌		クラミジア		計
	男	女	男	女	
11	145	20	89	159	413
12	118	13	137	221	489
13	142	17	165	184	508
14	121	16	162	190	489
15	114	12	135	180	441
16	121	22	152	192	487
17	103	13	123	181	420
18	110	17	133	167	427
19	79	19	123	151	372
20	71	8	98	161	338
21	47	11	108	180	346
22	61	15	103	180	359
23	84	22	118	172	396
24	79	16	132	209	436

図1 39年間の梅毒・淋病報告数年次的推移

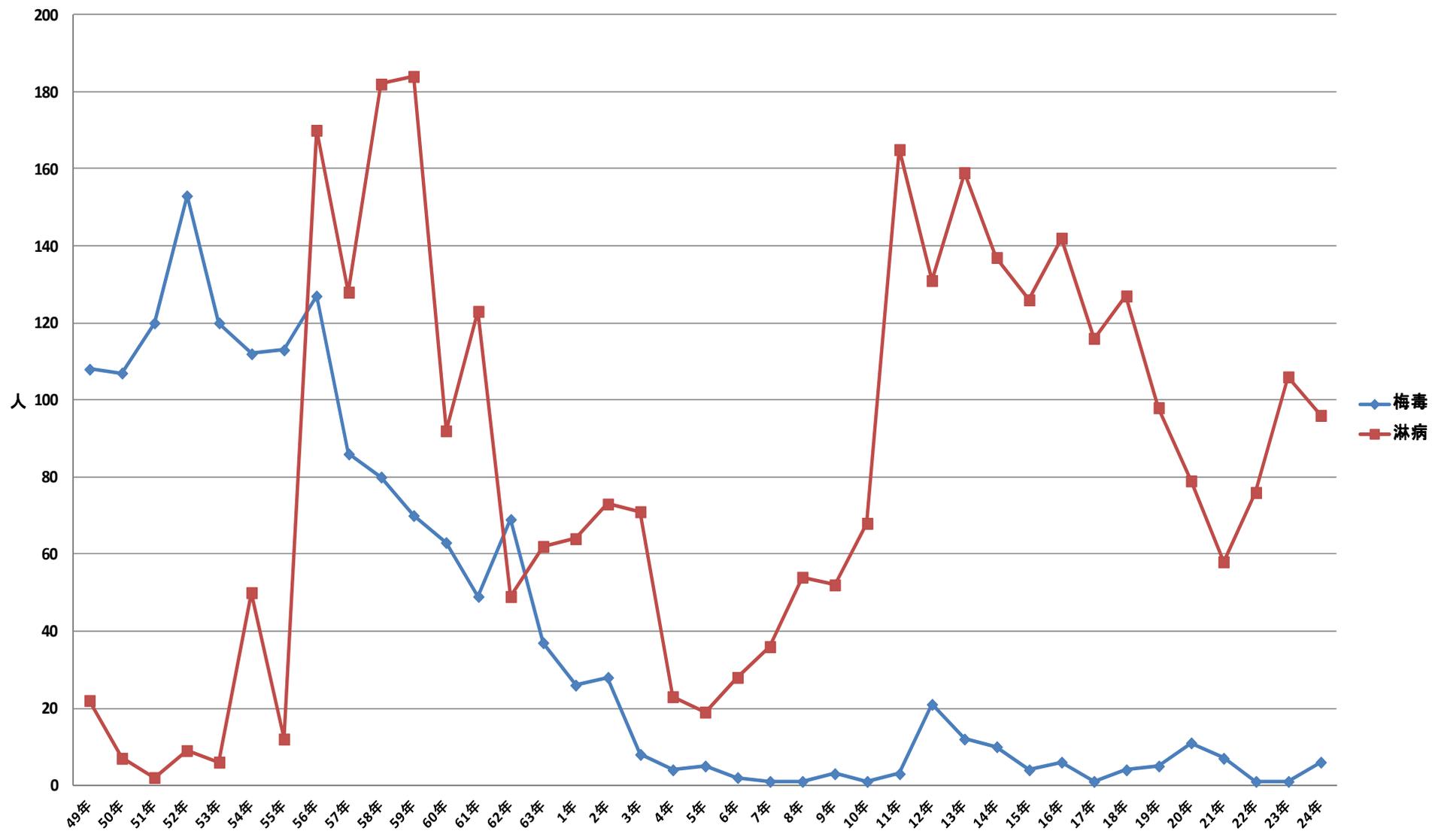
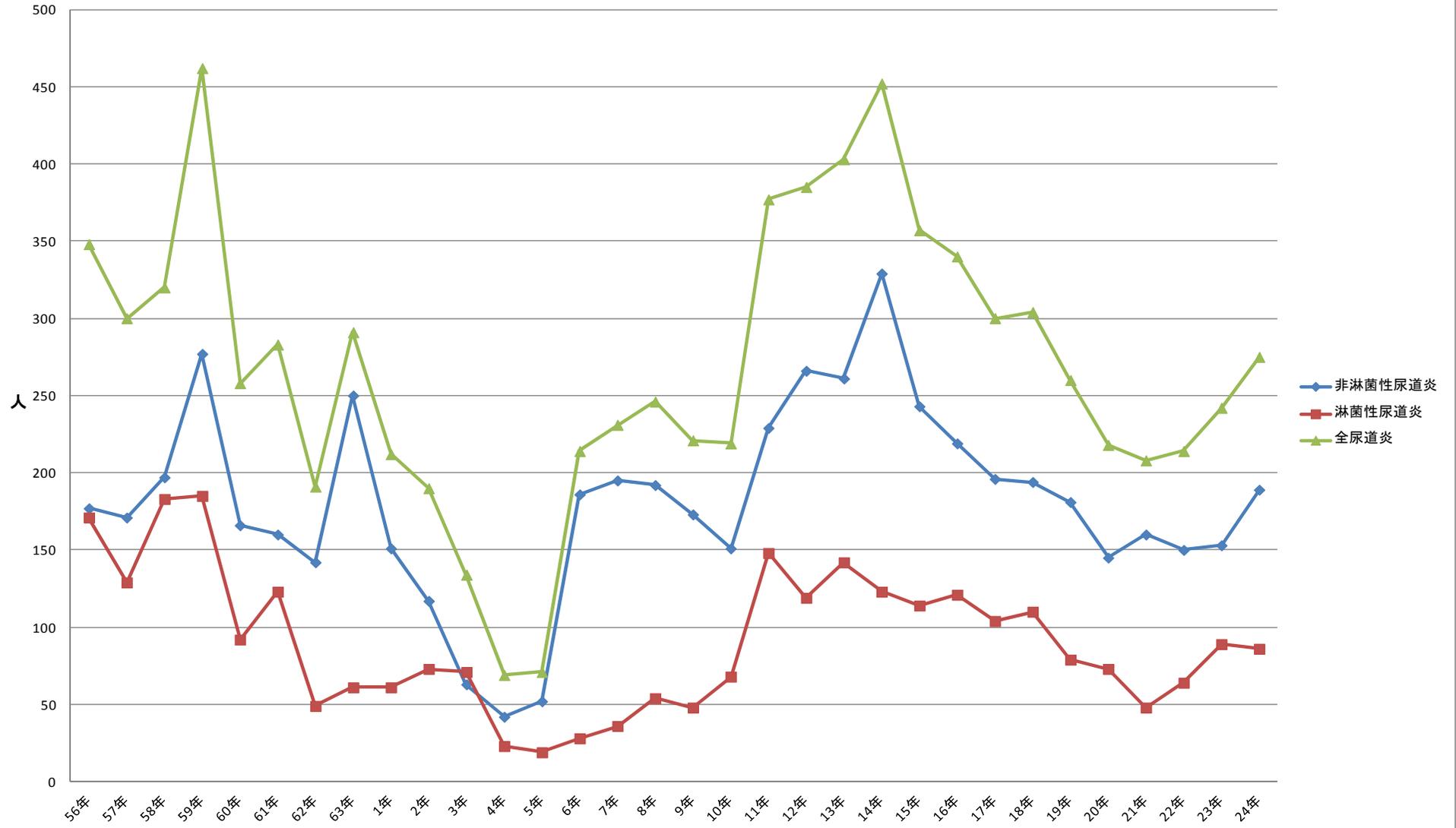


図2 32年間の尿道炎報告数年次の推移



S T I の届け出にご協力下さいました各施設の方々に、深く感謝いたします。

＜平成24年度 協力医療機関＞

【泌尿器科】

久里浜泌尿器科クリニック、里見腎泌尿器科、新村皮フ泌尿器科クリニック、ふくおか泌尿器科クリニック、古畑泌尿器科クリニック、よこすか女性泌尿器科・泌尿器科クリニック

【産科・婦人科・産婦人科】

今井ウィメンズクリニック、内出医院、うみかぜレディースクリニック、北久里浜産科婦人科クリニック、国立クリニック、高レディースクリニック、後藤産婦人科医院、小松原レディースクリニック、坂井産婦人科医院、佐々木医院、鈴木産科婦人科医院、つのだレディースクリニック、パクスレディースクリニック、横須賀マタニティークリニック

【皮膚科】

いまざわ皮フ科、金丸皮膚科、鴨居皮膚科、久里浜駅前皮フ科、コスモス皮膚科、長岡皮膚科医院、中林皮膚科、中村皮膚科、峯村皮膚科クリニック、新のび皮フ科、安田内科・皮ふ科

【その他医院】

青山医院、今井内科クリニック、いまにしクリニック、金谷医院、工藤医院、斎藤医院、湘南グリーンクリニック、鈴木クリニック、同胞援護会衣笠診療所、鳥海医院、中村外科整形外科

【総合病院】

浦賀病院、衣笠病院、自衛隊横須賀病院、湘南病院、横須賀共済病院、横須賀共済病院分院、横須賀市立うわまち病院、横須賀市立市民病院